

【松村主宰の俳句】

順 光

松村五月

米を研ぐための手のひら秋深し  
露地裏に引っかかりたる十二月  
愛すこし足りない紅葉且つ散りて  
北口を出づれば冬の入口か  
わたくしによく似た月夜茸の青  
風邪の子の枕辺にいるウルトラマン  
口開けの客となるなり着膨れて  
大根に味染みるころ皆戻る  
冬の陽や二短調にて送るなり  
父と見ている順光の冬の海